

CASEの最新技術集結

オートモーティブワールド開催

クルマの先端技術展「第13回オートモーティブワールド」(主催リードエグジビションジャパン)がこのほど東京ビッグサイトで開催された。Maas(移動のサービス)やカーエレクトロニクス、電動化、自動運転、コネクテッド、軽量化、部品・加工関連の七つの専門展で構成。CASE(つながる車・自動運転・シェアリング・電動化)の最新技術や製品などが集結した。

Maasや電動化7専門展

認証、試験、検査など第三者機関大手の日本品質保証機構(JQA、東京都千代田区)は、車載電子機器の電磁波影響を調べるEMC試験や、ISO/IEC 17025に基づく計測器の校正サービスなどを紹介した。

1月に車載機器専用EMCラボを昨秋の大阪の試験所に続き、JQA多摩テクノパーク(東京都八王子市)に開設。専用電波暗室2基や、あらゆる方向から対象物に電磁波をあて、より実環境に近い試験が行えるリバレーションチャンバ、1000Vまで給電可能な電源設備などを導入した。

5月には北名古屋市内で移転・増強する新中部試験センター内にも専用電波暗室3基やリバレーションチャンバーなどを備えた同EMCラボを新設する計画。東名阪の拠点間連携も進め、電動化や自動運転な

点から第三者レビューを実施。ソフトウェアによる車の制御領域が拡大する中、仕様書の曖昧さや不足を減らし、認識齟齬(そご)をなくす。

データコレクション・評価サービスでは、センサーや車載器の自動運転向けデータ収集、評価体制構築を提供。世界25カ国での公道実走によるデータ収集、フィールドテストの実績を生かし、コース設計や車両、ドライバーの手配、追加・変更作業などにも迅速かつ柔軟に対応する。

このほか、自動テスト・テスト環境構築やモビリティサービス検証、車載セキュリティ品質向上支援なども紹介した。

日本ヒストリング(本



ベリサーブ出展ブース

社東京都千代田区)は、高やモテリング(日本語発音)のモノづくりを開発上要求間関係性など多くの視点から進める「要求仕様書品質向上支援」や、「データコレクション・評価サービス」を披露した。

ソフトウェアのテストや検証を行うベリサーブ(本社東京千代田区)は、高やモテリング(日本語発音)のモノづくりを開発上要求間関係性など多くの視点から進める「要求仕様書品質向上支援」や、「データコレクション・評価サービス」を披露した。

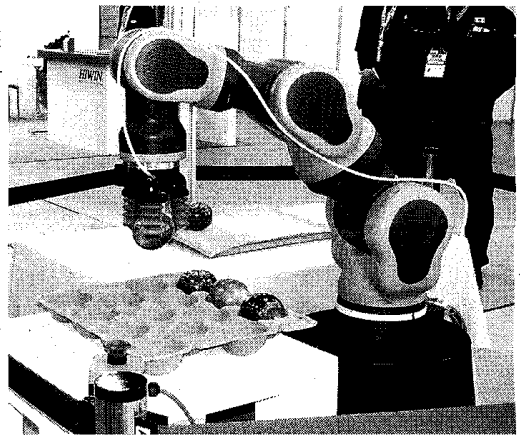
ロボットテックスでは、ITソリューション事業を手掛ける豆蔵(本社東京都新宿区)が三井化学、日本電産シンボとの共同研究による、軽さと柔らかさを高めた7軸ヒト協働ロボットの試作機を出品した。

三井化学の樹脂成形技術でロボットアームのフレームの大部分を樹脂化し、金属製に比べ重量を最大半分程度に軽減。日本電産シンボの高バックドラフトバリエティ減速機を用い、モーター電流値で高精度に外力の検出を可能にし、トルクセンサーなしでアーム動作を柔らかく制御できるよつにした。だが、多品種少量生産など豆蔵がロボットの設計や制御技術、組み立てを担った。うで「いきいき」と述べ、ヒト協働ロボットは従来

の産業用ロボットに必要な安全防護柵をなくすことができ、物流・倉庫や食品加工、工場、農業などの活用や、中小企業での導入拡大も期待される。

試作機は、重量27.5kg、可搬重量10kgで、軽量化で安全性を高めながら、重いものを運んだり、素早く効果的な動きを両立した。

同社は、ロボットシステム開発やAI(人工知能)、画像認識、外部制御による工場の自動化支援も展開。福島二雄取締役は「従来ロボットは同じ動作による大量生産での活用が主流だったが、多品種少量生産など豆蔵がロボットの設計や制御技術、組み立てを担った。うで「いきいき」と述べ、ヒト協働ロボットは従来



豆蔵のヒト協働ロボット試作機

首都圏情報 FROM TOKYO